

# 桑原小・中の取組

小中一貫教育の取組について No. 1

桑原小学校長 小川和彦  
桑原中学校長 武山昭見

## より良い学校にするための挑戦

4月のPTA総会のおりに、小学校・中学校長から、これまでの小中一貫教育を一層進めていくことをお話させていただきました。これまでの取組について、ご報告させていただくとともに、順次、今後の取組についての見通しについてお知らせをさせていただきます。保護者、地域の皆様のご理解とご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

### 1. 桑原小・桑原中学校の一貫についての歩み

- ・平成20～22年度に、桑原小・桑原中学校は、小中一貫教育について、羽島市の指定研究発表会を行いました。小学校の段階から、中学校を卒業する時を見据えて、子ども達の発達段階に応じた教科指導や生徒指導を行うことができました。
- ・特に中学生にとっては、自分の役割や立場を粹に感じる生徒が多く、学校全体をリードしようとする自覚が芽生えました。
- ❖こうしたメリットがあった取組だったのですが、それから数年間で、せっかくの取組が下火になってしまいました。これからの社会の変化に対応していくことができる小学校や中学校の在り方を考える時、小中一貫教育は、先進的な取組でした。実際、国は、平成28年度から、小中一貫教育を行うために、新しい学校種である「義務教育学校」をスタートさせています。新しい制度を作り、小中一貫教育が行いやすいように環境整備が整えられてきています。
- ❖そこで、私たち桑原小・桑原中学校は、平成20～22年度の小中一貫教育について取り組んだ財産を生かすために、せっかくの財産が生かしきれなかった理由と今後の在り方について検討してきました。

### 2. 財産を生かしきれなかった理由 1

- ・校長の経営方針を調整することが難しかった。
  - \*小学校、中学校それぞれが、目の前の子ども達をより良く導こうと努力してきました。校長の経営方針も、その方針を受けて教職員組織が計画する様々な教育活動も、より良く導こうとする願いが同じように根底にあるのですが、組織の違いから、共有や調整が難しく、それぞれの方針に基づく成果を優先するようになってきていました。
  - \*隣接していながら、それぞれの実態や課題についての理解は十分ではなく、直接目にしたり、ともに考えたりするプロセスを経っていないことで、共通理解が不十分なものになりました。
- ・職員室や施設が分断されていることによる繋がりの希薄さがあった。
  - \*職員室においては、教職員が様々な情報交換を行います。ペーパー資料では伝わらない細かな情報を共有することができます。子ども達への指導については、特に、共通理解が必要ですが、そのための共通空間があるかないかは、大きな違いがあると感じます。



次号では、生かしきれなかった点を、今後どのようにしていくかをお知らせします。